Strix 13：227-229（1994）

センダイムシクイへの赤い卵の托卵例

樋口広芳[1]・尾崎研一[2]

1. 東京大学大学院農学生命科学研究科野生動物学研究室．〒113 東京都文京区弥生 1-1-1
2. 森林総合研究所北海道支所．〒062札幌市豊平区羊ケ丘 7

センダイムシクイ *Phylloscopus occipitalis* の巣で，ツツドリ *Cuculus saturatus* のものと思われる赤色の卵を発見したので報告する．このセンダイムシクイの巣は，札幌市の郊外に位置する森林総合研究所北海道支所実験林（42°58′N，141°23′E，標高100m）で，1988年6月2日に発見された．営巣場所はシラカンバを主体とする疎林で，林床は1mを越すクマイザサにおおわれていた．巣はササやぶ内の地面が少しもりあがった所につくられていた．巣内には白色の卵4個と，それより少し大きい赤色の卵が1個みられた（図1）．白色卵1個と赤色卵をノギスで測定したところ，長径はそれぞれ16mmと21mmだった．白色卵は色，形状ともに，Kobayashi & Ishizawa（1940）や清棲（1965）に記載されているセンダイムシクイのものと同様だった．赤色卵の長径は，北海道でウグイス *Cettia diphone* に托卵するツツドリの赤色卵や，本州でウグイスに托卵するホトトギス *C. poliocephalus* の赤色卵の測定値の範囲内（Higuchi & Sato 1984）に入っており，色もそれらによく似ていた．これらの卵は6月7日にはいずれもまだふ化しておらず，センダイムシクイの親鳥が抱卵していたが，次に観察した6月15日には全卵が消失していた．卵殻もなかったので，ヘビなどの捕食者に捕食されたものと考えられる．

この赤色卵を托卵した種が何かは明らかではないが，この地域に生息している托卵性のカッコウ類にはカッコウ *C. canorus* とツツドリがおり，このどちらかが托卵したものと考えられる．（ただし，1987年以来これまでに1回，1994年5月30日にホトトギスが観察されたことがある―平川浩文 私信）．これまで知られているかぎりでは，ムシクイ類をおもな宿主とするのはツツドリである（Kobayashi & Ishizawa 1940，清棲 1965，Dementiev & Gladkov 1966，樋口 1988）．北海道でも，1例だが，十勝支庁管内でムシクイ類にツツドリのヒナが育てられた例がある（飯嶋良朗 私信）．また，ホトトギスのいない北海道の地域で，ツツドリはウグイスにしばしば赤色卵を托卵している（Higuchi & Sato 1984）．一方，北海道でも本州などでも，カッコウがムシクイ類に托卵した例や，何かの種に赤色卵を托卵した例は知られていない（Kobayashi & Ishizawa 1940，清棲 1965）．これらのことから，本調査地におけるセンダイムシクイへの赤色卵の托卵例は，ツツドリによるものではないかと考えられる．

これまで北海道でセンダイムシクイの巣に赤色卵が托卵された例は，釧路支庁管内の弟子屈での1例があるだけである（中西 1942，樋口 1985）．弟子屈でもホトトギスは繁殖しておらずツツドリは繁殖しているので（日本野鳥の会 1980，藤巻・黒沢 1994，樋口 個人観察），これもツツドリによる托卵例ではないかと考えられる．（ただし，ホトトギスは，北海道中央部でもまれに観察されることがある―藤巻 1992）．ツツドリは，本州などでセンダイムシクイに托卵するときには，褐色の細か

1994年12月13日受理

キーワード：センダイムシクイ，托卵，ツツドリ，北海道

図1．センダイムシクイの巣の中に産みこまれた赤色卵（中央上の大きめの1卵）．
Fig. 1. A parasitic reddish egg (larger one, central upper) in the nest of the Crowned Willow Warbler *Phylloscopus occipitalis*.

い斑点のある白っぽい卵を産む（Kobayashi & Ishizawa 1940, 清棲 1965）．北海道では，上記の弟子屈での例を除いて，センダイムシクイの巣でカッコウ類の卵が発見された例は報告されていないので，どんな色の卵を産むことが多いのかはわかっていない．今回の例や弟子屈の例のように，ツツドリは北海道でセンダイムシクイに托卵する時，常に赤色の卵を産むのだろうか．それともウグイスに托卵するツツドリが，托卵に適したウグイスの巣がない時に，センダイムシクイの巣に赤色卵を産みこんでしまうのだろうか．今後の研究課題である．なお，今回の例もそうだが，ムシクイ類は一般に，托卵された卵の色の違いに敏感ではないようである（樋口 1988）．伊豆諸島で繁殖するイイジマムシクイ *Ph. ijimae* は，自身の白色卵がある巣の中にホトトギスが赤色卵を産みこんでも，それをしばしば拒否せず抱卵する（樋口 1988）．

最後に，センダイムシクイの巣に赤色卵を産みこんだのがツツドリであるという確証はないので，今後は，赤色卵からふ化するヒナの形状などを調べることによって（Higuchi & Sato 1984, Higuchi & Payne 1986），寄主を確認する必要がある．

報告にあたり，ご助言をいただいた森林総合研究所北海道支所の川路則友と平川浩文の両博士，巣の場所を教えていただいた岸田昭雄氏に厚くお礼申し上げたい．

引用文献

Dementiev, G.P. & Gladkov, N.A. (eds). 1966. Birds of the Soviet Union. Vol. 1 (translated from Russian by Birron, A. and Cole, Z.S.). Israel Program for Scientific Translation, Jerusalem.

藤巻裕蔵. 1992. 北海道中央部におけるホトトギスの記録. Strix 11：351－352.

藤巻裕蔵・黒沢信道. 1994. 阿寒の鳥類. 阿寒国立公園の自然 1993, pp. 909－963. 前田一歩園財団, 阿寒.

樋口広芳. 1985. 赤い卵の謎. 思索社, 東京.

樋口広芳. 1988. ホトトギス類の托卵習性に見られる諸適応. 山岸哲(編). 鳥類の繁殖戦略（下）, pp. 1－31. 東海大学出版, 東京.

Higuchi, H. & Sato, S. 1984. An example of character release in host selection and egg colour of cuckoos *Cuculus* spp. in Japan. Ibis 126：398－404.

Higuchi, H. & Payne, R. 1986. Nestling and fledgling plumages of *Cuculus saturatus horsfieldi* and *C. poliocephalus poliocephalus* in Japan. Jap. J. Ornithol. 35：61－65.

Kobayashi, K. & Ishizawa, T. 1940. The Eggs of Japanese Birds. Vol. I. Published by the authors, Kobe.

清棲幸保. 1965. 日本鳥類大図鑑 I. 講談社, 東京.

中西悟堂. 1942. 野鳥を訪ねて. 日新書院, 東京.

日本野鳥の会. 1980. 第2回自然環境保全基礎調査, 動物分布調査報告書. 鳥類繁殖地図調査1978. 日本野鳥の会, 東京.

A case of a parasitic reddish egg in the nest of Crowned Willow Warblers *Phylloscopus occipitalis* in Hokkaido, northern Japan

Hiroyoshi Higuchi [1] and Kenichi Ozaki [2]

[1] *Laboratory of Wildlife Biology, School of Agriculture and Life Sciences, The University of Tokyo, Tokyo 113;* [2] *Hokkaido Research Center, Forestry and Forest Products Research Institute, Sapporo, Hokkaido 004*

A parasitic reddish egg was found in a nest of the Crowned Willow Warbler *Phylloscopus occipitalis* in Sapporo, Hokkaido, where Little Cuckoos *Cuculus poliocephalus* do not breed. It is not sure which species of cuckoo laid the egg, but it seems to be the Himalayan Cuckoo *C. saturatus*, which mainly parasitizes *Phylloscopus* willow warblers in Honshu and other areas, and which is known to lay a reddish egg in the nest of Bush Warblers *Cettia diphone* in Hokkaido. The is the second case of parasitic reddish eggs in the nest of Crowned Willow Warblers in Hokkaido.

Key words: brood parasitism, Cuculus saturatus, *Hokkaido* Phylloscopus occipitalis